

TOYOBO

第153期 中間報告書

2010年4月1日 ~ 2010年9月30日

NOW



-  Films & Functional Polymers
-  Industrial Materials
-  Life Science
-  Textiles

ここにも東洋紡

私たちは、「環境、ライフサイエンス、高機能で、新たな価値を提供するカテゴリートップ企業」を目指します。



フィルム・機能樹脂事業 逆テーパー型ポリスチレン容器

乳製品や乳酸菌飲料の容器に使用される逆テーパー型容器では、国内有数のメーカーです。



産業マテリアル事業 活性炭素繊維「Kフィルター™」 静電フィルター「エリトロン®」

オフィスビルなどの空調機器用フィルター、空気清浄機、事務機器などの各種フィルターとして使われています。



フィルム・機能樹脂事業 包装用フィルム、「パイロン®」 産業マテリアル事業 不織布

お菓子やレトルト食品などの包装フィルムをはじめペットボトルのラベルなど多種多様な製品に使われています。飲料用金属缶では、内側・外側両面をラミネートする缶ラミネートフィルムのほかに、フィルムと缶の接着剤として「パイロン®」、ホット用ボトル缶の断熱材として不織布の「エクーレ®」が使われています。



ライフサイエンス事業 高機能保湿成分「サーフメロウ®」 小麦胚芽抽出物「ファイトポリアミン®」

保湿成分やポリアミンなど天然のスキンケア化粧品の原料を効率的に生産する技術を開発しています。



株主のみなさまには、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間(2010年4月1日から2010年9月30日まで)の当社を取り巻く事業環境は、中国をはじめ新興国経済の拡大が続く一方で、わが国経済については輸出が牽引する形で企業の生産や設備投資の緩やかな回復がみられました。しかしながら、当累計期間後半にかけては、欧米の景気減速懸念に急速な円高も加わり、液晶分野等の一部業界での生産調整など、先行き不透明感が強まりました。

こうした事業環境のもと、当社グループは、「環境、ライフサイエンス、高機能で、新たな価値を提供するカテゴリトップ企業」を目指し、太陽電池バックシート用フィルム、インフルエンザ感染を測定する自動分析装置などの新製品の上市や液晶テレビ用超厚物フィルムなどの高機能製品を拡販するとともに、液晶・電子部品、自動車関連分野では、

アジア地域での機能樹脂の拡販などグローバル展開を進めました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績といたしましては、売上高は前年同期比149億円(9.6%)増の1,697億円、営業利益は同80億円(265.1%)増の109億円、経常利益は同77億円(607.5%)増の89億円と大きく前年同期実績を上回りましたが、特別損失として投資有価証券評価損を計上したことなどから四半期純損失は19億円となりました。

中間配当につきましては、財務状況や財務体質の強化なども勘案して見送らせていただくことといたしました。

2010年度の連結業績につきましては、欧米の景気減速や円高の長期化が懸念され、先行き不透明ではございますが、売上高3,400億円(前期比212億円増)、営業利益220億円(同105億円増)、経常利益190億円(同116億円増)、当期純利益50億円(同29億円増)を予想しています。

また、当社の「ザイロン®」繊維を使用した防弾ベストに関する訴訟においては、引き続き訴訟の中で相手側の主張が誤りであることを立証し、適切な防御を行ってまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

坂元龍三



環境、ライフサイエンス、高機能で、 新たな価値を提供するカテゴリートップ企業へ

当社グループを支える多くの事業は、70年代の構造不況を契機に事業化されました。厳しい環境下で市場の変化をとらえ、新たな製品コンセプトを描き出すことでスペシャルティ製品を生み、育ててきました。これからも、市場のニーズをとらえたビジネスモデルを創り出し、常にカテゴリートップ（特定の市場、分野において、当社の強い技術、ノウハウでもって、圧倒的に優位なポジションを占める事業）を目指さなければなりません。

そのためには、成長期待市場において、新事業の創出を進めていく必要があります。環境、ライフサイエンス分野は、今後の成長期待分野であり、当社グループの技術の強みを活かせる分野でもあります。

環境、エネルギーの分野においては、すでに太陽電池バックシート用ポリエステルフィルムを上市し、さらなる開発を進めています。またLEDや、自動車分野を中心に活用が見込まれる高耐熱ポリアミド樹脂、大気汚染防止に貢献する溶剤回収装置の新用途展開といった事業の創出も進めています。ライフサイエンスの分野においては、次世代の血糖センサー用モニター酵素、感染症を対象とした簡易測定診断システム、抗体医薬、医薬製造受託などの拡大を図っていきます。

引き続き厳しい環境が続くことが予想されますが、東洋紡グループ全員の英知を結集し、「カテゴリートップ事業の群生」を目指して頑張ってまいります。

■ 成長期待市場

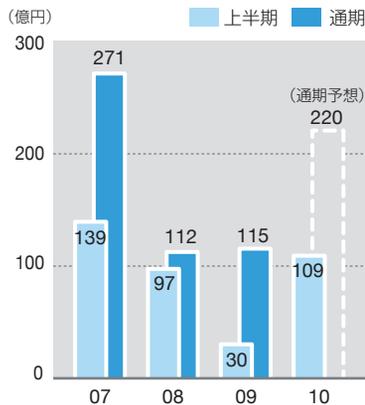
セグメント	市場	自動車	電子・情報表示	環境	ライフサイエンス	生活安全
フィルム・機能樹脂			液晶・光学用フィルム 次世代電子材料 機能樹脂	太陽電池用PETフィルム 燃料電池膜 高融点ポリアミド樹脂		包装用フィルム
産業マテリアル		エアバッグ用基布 機能フィルター		PET新触媒 溶剤回収装置 機能フィルター		「ダイナーマ®」 「プレスエア®」
ライフサイエンス				水処理膜	医用膜 診断システム 診断薬用酵素 医薬製造受託 医薬中間体	化粧品原料
衣料繊維						機能衣料

財務ハイライト(連結)

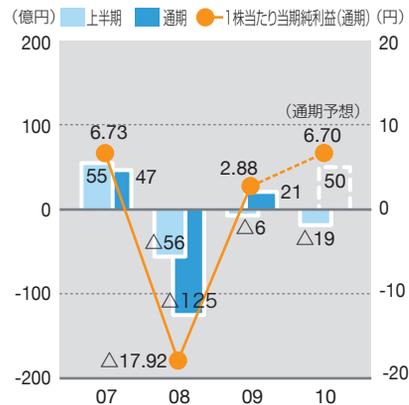
売上高



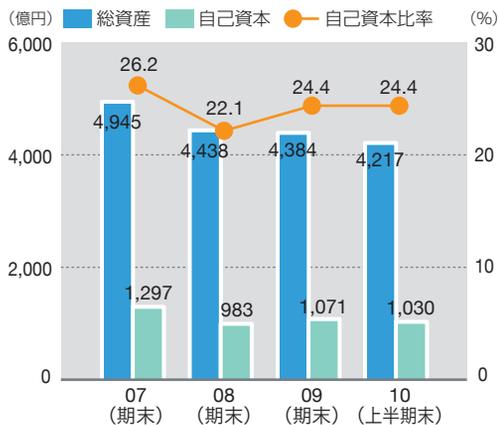
営業利益



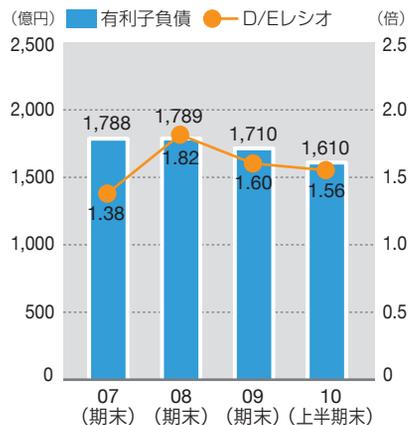
当期純利益・1株当たり当期純利益



総資産・自己資本・自己資本比率

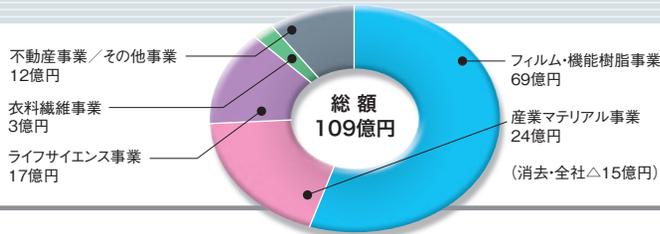


有利子負債・D/Eレシオ



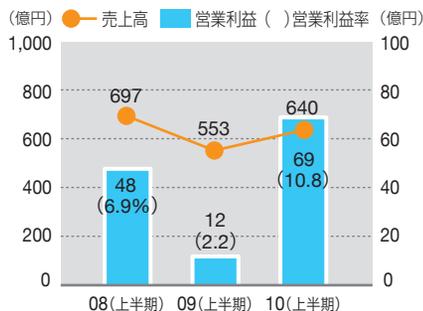
事業別業績の概要

当上半期事業セグメント別営業利益



フィルム・機能樹脂事業

売上高	営業利益	営業利益率
640 億円	69 億円	10.8 %



当事業は、デジタル家電分野や自動車関連分野などを中心に数量を拡大し、前年同期に比べ、大幅な増収、増益となりました。

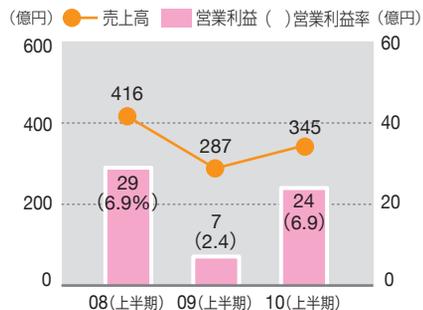
フィルム事業では、包装用フィルムは、需要が堅調に推移しました。工業用フィルムは、液晶・光学用途の好調な荷動きに支えられ大幅な増収となりましたが、第2四半期後半からは、一部ユーザーの生産調整の影響を受けました。機能樹脂事業では、工業用接着剤の「バイロン®」は中国向けの電子部品関連を中心に、好調に推移しました。エンジニアリングプラスチックは、主力の自動車用途が国内外を中心に順調に推移し、大幅な増収となりました。ポリオレフィン用接着付与剤「ハードレン®」も輸出を中心に順調に売上高を伸ばしました。



フィルム原反

産業マテリアル事業

売上高	営業利益	営業利益率
345 億円	24 億円	6.9 %



当事業は、自動車関連分野の回復に加え、環境関連、生活・安全分野でも溶剤回収装置、フィルター、超高強力ポリエチレン繊維「ダイニマ®」等が堅調に推移したことから、前年同期に比べ、増収、増益となりました。

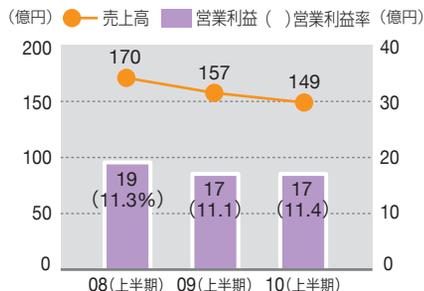
エアバッグ用基布およびタイヤコードは、エコカー減税など政策支援効果もあり需要が回復したことから、大幅な増収となりました。超高強力ポリエチレン繊維「ダイニマ®」は、2010年6月からの新設備の稼働もあり、安全手袋をはじめ釣糸など各分野で販売を拡大しました。また、フィルター分野では、自動車、事務機器用途が好調に推移するとともに、溶剤回収装置は、国内企業の設備投資の回復に加え、海外の新規顧客の開拓により売上高を伸ばしました。



VOCガス処理装置(シャープ株式会社亀山工場)

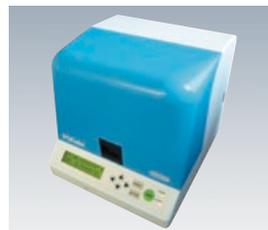
ライフサイエンス事業

売上高 **149** 億円 営業利益 **17** 億円 営業利益率 **11.4** %



当事業は、需要は概ね堅調に推移しましたが、円高、薬価改定の影響もあり、前年同期に比べ減収、減益となりました。

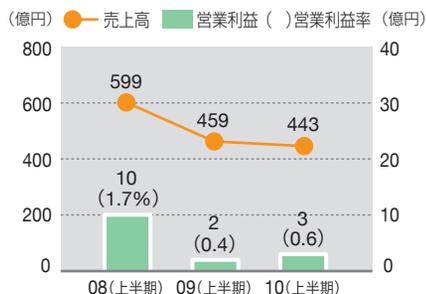
バイオ事業では、診断薬原料酵素は、為替の影響があったものの、血糖センサー用モニター酵素を中心に販売を着実に伸ばしました。診断システムは、尿沈査自動分析装置に加え、インフルエンザ感染を迅速・高感度に測定できる小型免疫自動分析装置を上市するなど新製品の拡販に努めました。機能膜事業では、医用膜は、海外向けの出荷は堅調に推移しましたが、国内向けが薬価改定の影響により伸び悩みました。アクア膜は、交換膜の需要は堅調に推移しましたが、為替の影響を受けました。



小型免疫自動分析装置「POCube®」

衣料繊維事業

売上高 **443** 億円 営業利益 **3** 億円 営業利益率 **0.6** %



当事業は、個人消費の停滞の影響と事業分野の絞り込みにより、前年同期に比べ、減収、増益となりました。

スポーツアパレル分野では、大手スポーツアパレルとの取り組みは着実に拡大しましたが、百貨店向けなどその他分野は減収となりました。インナー分野では、量販店向けの機能素材が順調に売上高を伸ばしました。中東向けの織物輸出は、新製品投入で数量は回復基調にあるものの、円高の影響を受けました。アクリル繊維の「エクスラン®」は、国内外の需要は堅調だったものの、原料高と為替の影響を受けました。



超軽量ナイロン織物「シルファインN®」使用

不動産事業／その他事業

売上高 **120** 億円 営業利益 **12** 億円 営業利益率 **10.1** %

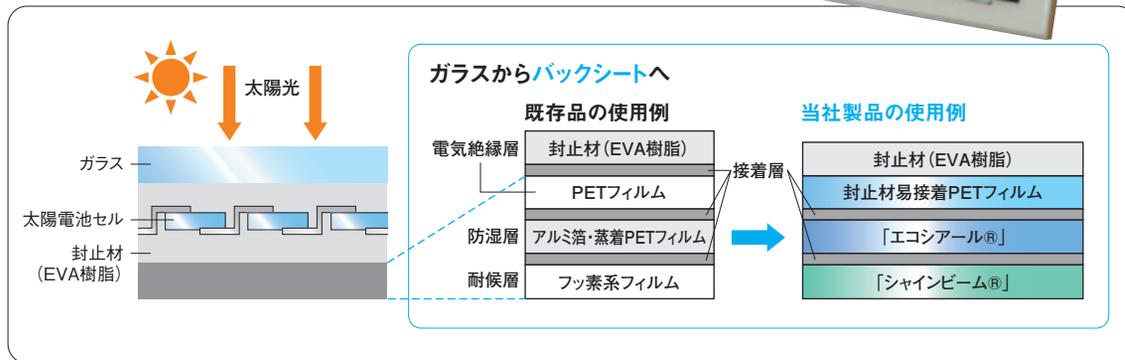
当事業では、不動産、エンジニアリング、情報処理サービス、物流サービス等のインフラ事業は、それぞれ概ね計画通りに推移しました。

太陽光発電システム向けにさまざまな高機能ポリエステルフィルムを販売開始

当社は、今後さらに普及が期待される太陽光発電システム(通称:太陽電池)のバックシートに用いられる各種ポリエステルフィルムの販売を開始しました。

これまで太陽電池の最上層と最下層にはガラスが用いられてきましたが、軽量化のため、最下層のガラスは樹脂フィルムを積層したバックシートへの置き換えが進んでいます。バックシートは、一般的に電気絶縁層、防湿層および耐候層の三種類の機能性フィルムを積層して作られており、太陽電池の寿命を左右する重要な部材です。

耐候層は、フッ素系フィルムからPETフィルムへの置き換えが進んでいますが、当社は、高い耐熱性・耐久性をもつPETフィルム「シャインビーム®」を開発し、販売を開始しました。「シャインビーム®」は、重金属を含まない触媒を使用しているため、環境にもやさしいPETフィルムです。また、電気絶縁層には、太陽電池のセルを保護する封止材との接着性を向上させたPETフィルムを開発し、防湿層にも、結晶シリコン太陽電池用に、高い防湿性を有する「エコシアール®」ハイバリアグレードを開発中です。



インフルエンザ感染を高感度・短時間で判定できる診断システムを開発

昨年、新型インフルエンザH1N1型が世界的に流行したことは記憶に新しいと思います。当社は、この新型インフルエンザを含むA型・B型を判定できる診断システムを開発いたしました。判定には、すでに当社から販売している小型免疫自動分析装置「POCube®」と専用の試薬カートリッジ「ピオキューブ®FluAB」を用います。この診断システムには以下のような特長があります。

①検査結果がその場で分かる

従来の判定方法の多くが、15分程度かかっていた判定を「POCube®」では、約6分で行うことができます。

②判定結果が一目で分かる

従来の判定方法では、目視で結果判定をしていましたが、「POCube®」では自動的に陰性・陽性の検査結果がデジタル表示されます。

③感度が高いので感染初期に発見しやすい

従来の判定方法に比べ、インフルエンザA型ウイルスでは4倍以上、インフルエンザB型ウイルスでは12倍以上の高感度で検査できます。

また、「POCube®」は、試薬カートリッジの種類を増やすことで、インフルエンザ以外のさまざまな種類の感染症疾患を測定することもできます。病院や診療所などの医療機関だけでなく、各自治体なども含め販売活動をすすめています。



- 1 測定準備
試薬カード、専用チップ、反応容器をセット
- ↓
- 2 検体を分注
- ↓
- 3 試薬カートリッジをセット
- ↓
- 4 測定開始
スタートから約6分で測定完了

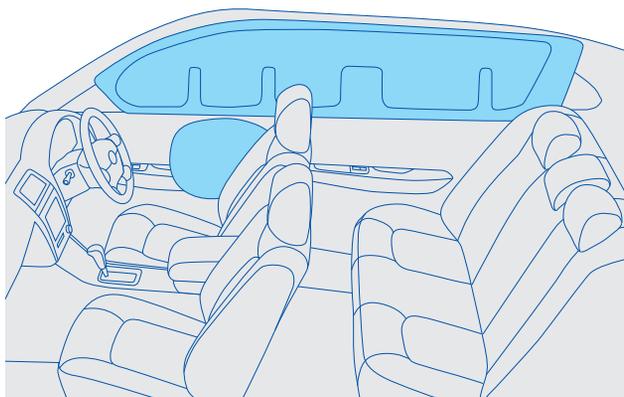


コート材を分離せずにリサイクルできる エアバッグ用コート布を開発

近年は、側面からの衝突に備えたサイドエアバッグやカーテンエアバッグを搭載した車も増えています。しかし、これまでサイドエアバッグなどに使用されていたコート布のリサイクルは、技術的にもコスト的にも難しく、多くの場合、製造工程で発生する端材は、埋め立てなどで産業廃棄物として処理されていました。

当社は、こうした市場のニーズに着目し、低コスト化とリサイクルが可能なコート材を開発しました。このコート材は、これまで使用されてきたシリコン樹脂ではなく、新たに開発したナイロン樹脂です。この樹脂で基布をコーティングすることにより、シリコン樹脂の半分以下のコート量でも燃焼性、通気度において同等の性能を実現するとともに、基布とコート材を分離することなくリサイクルすることも可能にしました。

当社は、この新しいコート布が、持続可能な循環型社会の構築に貢献できると考えており、これまで得意としてきた運転席や助手席用のエアバッグ基布とあわせて、さまざまな車種、部位での採用拡大を図っていきます。



〈従来のコート布との比較拡大写真〉

従来の
シリコン樹脂による
コート布



当社が開発した
ナイロン樹脂による
コート布



精密化学品事業本部が発足

2010年3月、当社グループの東洋化成工業株式会社を吸収合併し、精密化学品事業本部が発足しました。80年の歴史で培った独自の合成技術、高分子技術から生み出される化学品は、医薬・農薬の中間体、電子材料、自動車関連素材、一般工業薬品の分野で活用されています。

ファインポリマー

プラスチックの塗装、印刷、そして接着などの加工に適した素材を製造・販売しています。主力製品は、ポリプロピレンを変性した樹脂である「ハードレン®」や「トーヨータック®」です。自動車のバンパーの下塗り塗料、インキのバインダー、接着剤などとして使われています。



「ハードレン®」使用

ファインケミカル

東洋化成工業株式会社の祖業である二硫化炭素の製造を原点とした製品を手掛けています。医薬品の分野では高血圧や糖尿病の治療薬などの医薬中間体、自動車分野ではタイヤゴムを弾性化する加硫調整剤やエアバッグ用のガス発生剤、その他に電子材料分野などで使われています。



製造エリア

プラスチック

食品用途を中心に、ポリスチレン、ポリプロピレンなどを原料としたプラスチック成形品（逆テーパー型容器など）や、食品用トレイなど幅広く使用されているポリプロピレンシートを製造しています。



ポリプロピレンシート

- 1929
東洋硫黄工業株式会社を設立
- 1959
東洋化成工業株式会社に社名変更
化成事業に進出
- 1964
「ハードレン®」の製造を開始
- 1969
プラスチック成形品事業を開始
- 1974
医薬中間体の多目的プラントを
高砂工場（兵庫）に新設
- 1991
エアバッグ用ガス発生剤分野に
進出
- 2010
当社と合併し精密化学品事業
本部となる

※ファインポリマー、プラスチックは、フィルム・機能樹脂事業に、ファインケミカルはライフサイエンス事業に属しています。

■ 四半期連結貸借対照表

(百万円未満四捨五入表示)

科 目	当第2四半期連結会計期間末 (2010年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (2010年3月31日)
資産の部		
	百万円	百万円
流動資産	151,238	157,329
現金及び預金	8,119	10,110
受取手形及び売掛金	70,288	72,931
商品及び製品	36,285	38,538
仕掛品	13,601	12,312
原材料及び貯蔵品	12,523	11,663
その他	10,780	12,323
貸倒引当金	△358	△548
固定資産	270,499	281,110
有形固定資産	205,297	210,251
建物及び構築物(純額)	48,168	48,872
機械装置及び運搬具(純額)	37,841	40,569
土地	107,322	107,293
その他(純額)	11,967	13,517
無形固定資産	2,037	1,603
投資その他の資産	63,164	69,255
その他	64,747	70,793
貸倒引当金	△1,538	△1,538
資産合計	421,736	438,439

科 目	当第2四半期連結会計期間末 (2010年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (2010年3月31日)
負債の部		
	百万円	百万円
流動負債	152,218	163,554
支払手形及び買掛金	44,589	45,360
短期借入金	51,312	54,528
1年内返済予定の長期借入金	24,129	30,660
引当金	4,112	3,888
その他	28,076	29,119
固定負債	142,530	143,787
社債	15,225	15,225
長期借入金	63,182	63,060
退職給付引当金	15,783	15,248
役員退職慰労引当金	380	486
環境対策引当金	1,085	1,092
その他	46,875	48,677
負債合計	294,748	307,341
純資産の部		
株主資本	75,970	80,503
資本金	43,341	43,341
資本剰余金	23,838	23,839
利益剰余金	9,350	13,881
自己株式	△559	△558
評価・換算差額等	27,017	26,592
その他有価証券評価差額金	186	△584
繰延ヘッジ損益	△236	△182
土地再評価差額金	38,192	38,197
為替換算調整勘定	△11,126	△10,839
少数株主持分	24,002	24,002
純資産合計	126,989	131,097
負債純資産合計	421,736	438,439

四半期連結損益計算書

(第2四半期連結累計期間)

(百万円未満四捨五入表示)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (自 2010年4月1日 至 2010年9月30日)
	百万円
売上高	169,738
売上原価	131,343
売上総利益	38,395
販売費及び一般管理費	27,445
営業利益	10,949
営業外収益	2,351
受取配当金	521
負ののれん償却額	490
その他	1,340
営業外費用	4,354
支払利息	1,365
その他	2,989
経常利益	8,946
特別利益	38
固定資産売却益	9
出資金売却益	29
特別損失	8,130
投資有価証券評価損	4,873
その他	3,257
税金等調整前四半期純利益	854
法人税等	2,307
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,452
少数株主利益	464
四半期純損失(△)	△1,916

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円未満四捨五入表示)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (自 2010年4月1日 至 2010年9月30日)
	百万円
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,886
税金等調整前四半期純利益	854
減価償却費	9,193
支払利息	1,365
投資有価証券評価損益(△は益)	4,873
売上債権の増減額(△は増加)	2,392
たな卸資産の増減額(△は増加)	△876
仕入債務の増減額(△は減少)	△641
その他	503
小計	17,663
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	223
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,662
有形及び無形固定資産の取得による支出	△5,734
その他	1,072
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15,027
短期借入金の純増減額(△は減少)	△3,127
長期借入れによる収入	12,528
長期借入金の返済による支出	△18,936
配当金の支払額	△2,596
利息の支払額	△1,338
その他	△1,559
現金及び現金同等物に係る換算差額	△187
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,990
現金及び現金同等物の期首残高	9,953
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,963

事業内容

フィルム・機能樹脂事業

包装用フィルム、工業用フィルム、工業用接着剤、エンジニアリングプラスチック、光機能材料 等

産業マテリアル事業

自動車用繊維資材、スーパー繊維、機能フィルター、不織布 等

ライフサイエンス事業

診断薬用酵素等のバイオ製品、医薬品、医用膜、医療機器、アクア膜(水処理用膜) 等

衣料繊維事業

機能衣料、アパレル製品、衣料テキスタイル、衣料ファイバー 等

不動産事業／その他事業

不動産の賃貸・管理、建物・機械等の設計・施工、情報処理サービス、物流サービス 等

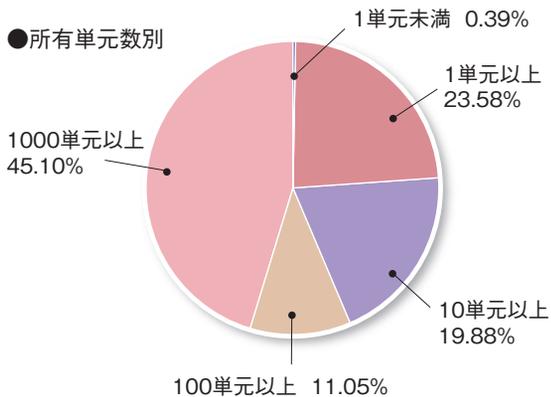
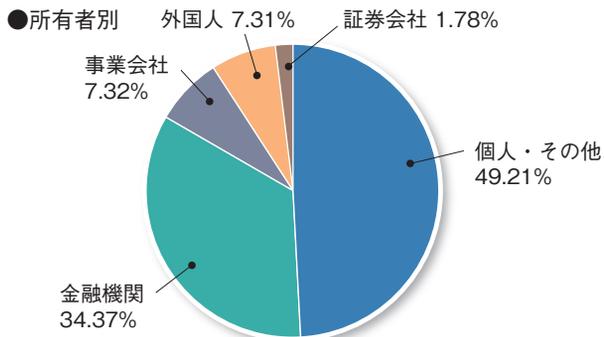
株式の状況 (2010年9月30日現在)

■発行可能株式総数 2,000,000,000株

■発行済株式の総数 750,487,922株
(自己株式1,850,727株含む)

■株主数 101,271人

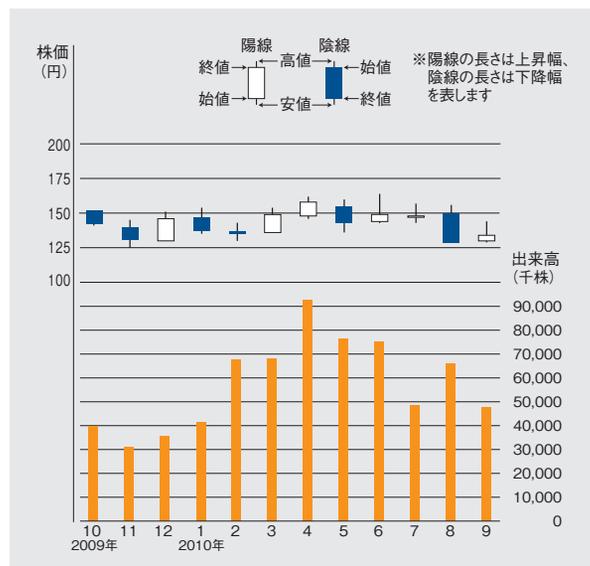
■株式分布の状況



■大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	33,305	4.44
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	28,412	3.79
日本生命保険相互会社	21,885	2.92
東友会	13,997	1.87
株式会社みずほコーポレート銀行	13,393	1.78
株式会社三菱東京UFJ銀行	13,214	1.76
株式会社三井住友銀行	13,034	1.74
明治安田生命保険相互会社	11,029	1.47
東洋紡績従業員持株会	10,478	1.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(中央三井信託銀行退職給付信託口)	9,054	1.21

■株価の推移



(注)最高・最低株価、出来高は、東京証券取引所市場第一部におけるものです。

社 名 東洋紡績株式会社
 英 文 社 名 TOYOBO CO., LTD.
 証 券 コ ー ド 3101
 創 立 1882年(明治15年)5月3日
 設 立 1914年(大正3年)6月26日
 資 本 金 43,341,203,166円
 本 社 大阪市北区堂島浜二丁目2番8号
 (代表 06-6348-3111)
 東 京 支 社 東京都品川区東五反田二丁目10番2号
 名 古 屋 支 社 名古屋市中区栄三丁目2番3号
 従 業 員 数 連結 10,251名 単体 3,237名

■ ホームページのご案内

URL <http://www.toyobo.co.jp>



■ 関係会社

	国内	海外	計
連結子会社	41	16	57
持分法適用会社	7	3	10
計	48	19	67

■ 役員 (2010年9月30日現在)

代表取締役社長	社長執行役員	坂元龍三
代表取締役	専務執行役員	今村文繁
代表取締役	専務執行役員	林健治
取締役	常務執行役員	三好文章
取締役	常務執行役員	香川裕行
取締役	常務執行役員	栗田和夫
取締役	執行役員	関野政昭
取締役	執行役員	香山和正
取締役	*注1	芦田邦弘
監査役 (常勤)		矢吹和之
監査役 (常勤)		下道節男
監査役	*注2	西尾修作
監査役	*注2	西浦洋

(注1) 取締役のうち芦田邦弘氏は社外取締役であります。

(注2) 監査役のうち西尾修作氏および西浦洋氏は社外監査役であります。

株 主 メ モ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
(期末の配当金受領株主確定日 3月31日)

定時株主総会 6月に開催いたします。

基準日 定時株主総会の基準日は3月31日といたします。
その他必要のあるときは、あらかじめ公告して定めます。

単元株式数 1,000株

公告掲載ホームページアドレス

<http://www.toyobo.co.jp>
電子公告による公告ができない場合、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒541-0041 大阪市中央区北浜二丁目2番21号
中央三井信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店
および全国各支店ならびに日本証券代行株式会
社の本店および全国各支店で行っております。

単元未満株式(1~999株)をお持ちの方へ

単元未満株式をお持ちの場合、当社に対して、次の請求を行うことにより、売却または1,000株におまとめいただくことができます。ぜひ、以下の制度をご利用ください。

**買取
制度**

単元未満株式の買取を請求する。

**買増
制度**

単元株式(1,000株)にするため、
不足する株数の株式の売り渡しを請求する。

各種手続のお申出先

- 住所変更、配当金の受け取り方法のご指定、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

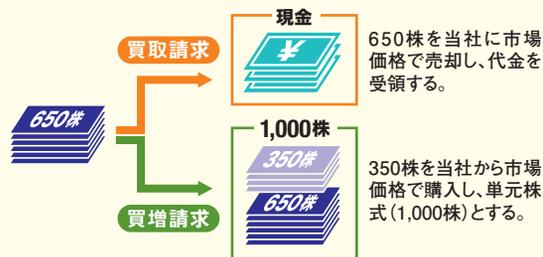
区 分	お申出先
証券会社でお取引をされている株主様	株主様の口座のある証券会社
特別口座(証券会社に口座のない)の株主様 (下の区分を除く)	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 (左記、照会先をご参照ください。)
御幸ホールディングス株式会社との株式交換により当社株主となられた特別口座の株主様	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話0120-232-711(フリーダイヤル)

※証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。なお、平成21年9月1日付、当社と御幸ホールディングス株式会社との株式交換により当社株主となられた場合は、御幸ホールディングス株式会社において特別口座が開設された三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

- 未払配当金の支払について

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

(例) 当社株式650株をお持ちの場合



お手続方法につきましては、上記のお申出先へお問合せください。